

## タンクローリーやタンカーの大型化などにより、 効率化・省エネルギーを推進しています。

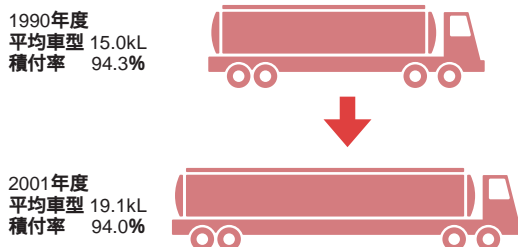
石油製品は、製油所から全国のSS(サービスステーション)や油槽所、大口のお客様の工場などに向けて、タンクローリーや内航タンカーなどによって輸送されます。当社は、タンクローリーや内航タンカーの大型化、油槽所の統廃合、他社との共同化など、早くから効率化・省エネルギーに取り組んできました。燃料消費に関しては、陸上・海上ともに、2010年までに1990年度比で9%の削減を目標としていますが、すでにこの目標を上回る成果をあげています。

また、事故防止のための施策として、運行協力会社に対して、従業員の安全教育や疲労度チェック、タンクローリーの改善を要求するとともに、安全な輸送に功績のあった協力会社を表彰しています。

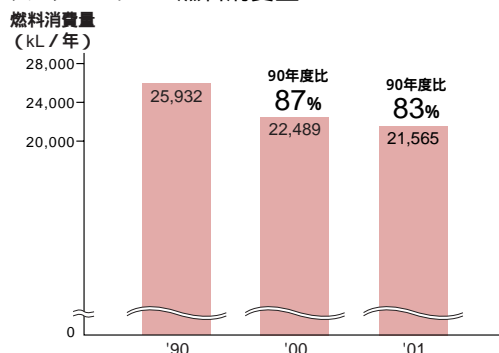
### 陸上輸送の効率化

陸上輸送では、車輛の大型化や稼働時間の延長、台数の削減などにより、省エネルギー化を図っています。ローリー1台当たりの稼働時間は、夜間配送、日曜祝日配送の拡大などによって向上し、台数に関しても、2001年度は59台(10.1%)のローリーを削減しました。こうした活動の結果、2001年度の燃料消費量は、1990年度に比べ16.8%

#### タンクローリーの平均車型と積付率



#### タンクローリーの燃料消費量



の削減を達成しています。

今後は、積付率のさらなる向上や、夜間配送の拡大による配送効率の向上に努め、エネルギー消費量の削減を推進します。



大型化するタンクローリー

### 海上輸送の効率化

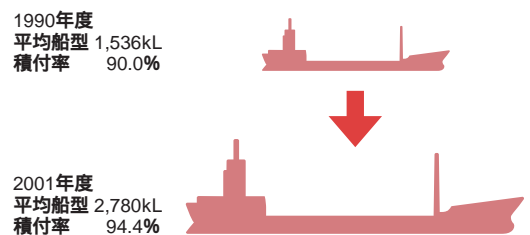
製油所から物流基地、油槽所などへの輸送には、数千トン級の内航タンカーを使用します。タンカーの大型化、積付率・稼働率の向上により、燃料の消費は1990年度に比べ15.3%の削減を達成しています。

今後も、新日本石油(株)との提携を活かした受入基地の共同化などにより、タンカーの大型化を進めるとともに、配船のミスマッチの低減や、休日・夜間荷役の推進によって、稼働率を向上させていきます。



大型化する内航タンカー

#### 内航タンカーの平均船型と積付率



#### 内航タンカーの燃料消費量

